

The 'New Apostolic Reformation' 「新使徒改革」

情報元：Prophecy Today UK 2019年2月8日掲載（日本語訳 2019年12月19日）

https://prophecytoday.uk/comment/church-issues/item/1351-the-new-apostolic-reformation-an-overview.html?fbclid=IwAR3gPrhINaazLvPhOk5raEH1X1m5ReQR8zZzQTKLA7rhY8DbU_I_Euhx2jcY



超恵みから癒しの振動まで：NARがいかにしてカリスマ派を迷わせているか。

「あなたのみこころを行なうことを教えてください。あなたこそ私の神でありますから。あなたのいつくしみ深い霊が、平らな地に私を導いてくださるよう
に。」（詩篇143:10）

（写真：ヒルソングの2018年のカンファレンス、タイトル「もっとある！」）

プロファシー トゥデーUKでは、20世紀初頭のペンテコステ運動と、1960年代と70年代のカリスマ派リニューアル運動は、神の人々が聖霊の理解と感謝を備えるための、神の動きであったと信じています。私たちはしばしば、この備えは、20世紀と21世紀に効果的な証人になるために教会を準備するという特定の目的を意図したものであると述べてきましたが、その間に世界人口が急増し、宗教地図が劇的に変化しました。

しかし、わたしたちは、そのような神の動きが人間の罪と悪魔の欺瞞によってハイジャックされ、破壊される危険性を認識しています。そしてこの危険は、今日、初期の教会時代より劣っていないことを認識しています。当時、偽の教師と偽の預言者が、生まれたてのキリスト教コミュニティに浸透し、パウロと他の使徒たちは、欺瞞に対する防衛の重要性について、頻繁に、情熱的に話すようになりました。

ウェンブリー・アリーナでのデビッド・ハサウェイの1月の祈りの日を取り巻く、最近の懸念について、私たちは、西洋のカリスマ教会に浸透する特定の動きに関して、より広範な声明が必要であると感じました。

私たちは、「新使徒改革」または「NAR」として呼ばれる、このミニストリー、教え、慣習、姿勢の群れは、カリスマ派を操縦して、コースから完全に逸脱させる可能性を持っていると信じています。しかし、NARとは何か、また私たちは、どのように聖書の真理をもって、その教えと戦うことができるのでしょうか？

略歴

NARは、1940年代の「後の雨運動」後の「Manifest Sons of God/神の御子表明運動」カンザスシティの預言者、トロント祝福（1994年）、ブラウンズビル/ペンサコーラでの出来事（1995-2000）、レイクランドフロリダ州の「outpouring/湧出」（2008）を生み出したのと同じ教えの今日の表現です。

1990年代半ばに、クリフォード・ヒル博士は、他の英国の教会の指導者達と一緒にトロントでのイベントに関する警報を鳴らしました。それが1995年の著書「教会を祝福？」となり、プロファシー トゥデーUKで2018年に連載されました。しかし、アラームが鳴ったものの、その後、NAR運動はどんどん広がり、影響力を増して行きました。2000年代と2010年代を通じて、かつては少数派の巡回リバイバル主義者の領域であった教えは、主流のカリスマ派の世界に流入して行きました。

今日のNARは、カリスマ派のミニストリーや、指導者、教えに広がり、中央組織や信仰の表明、特に伝統的な宗派のカテゴリーは確実に持たない緩い集まりです。これは、運動の中核創設者C.ピーター・ワグナーによって作られたものの、その中の多くは「NAR」という用語を認識しません。また、その曖昧さと、対人関係的な性質から「ネットワークキリスト教」とも呼ばれています。

今日、NARのパワーハウスは、カリフォルニア州レディング市のビルとベニ・ジョンソンのベセル教会（旧AOG、現在独立）、オーストラリアのヒルソング教会（旧AOG、現在独立）、トロントの”キャッチ ザ ファイアー”（旧トロント空港ヴィンヤード、現在独立）、ハイディ・ベイカーのアイリス・ミニストリー、リック・ジョイナーのモーニングスターミニストリーを含む、その他多数。これらのNARと結びついているミニストリーの歌や、教え、書籍、イベントが、英国のほとんどのカリスマ派の教会や、宗派間のカンファレンス、キリスト教書店、キリスト教のテレビやラジオで促進されています。

この「ネットワーキング」は、音楽、文学、出版社、メディア、トレーニングプログラム、ソーシャルメディアの使用、そして有名なミニストリーや指導者とのプラットフォーム共有またはコラボレーション、これらの組み合わせによって達成されています。おまけに、NARは現在、独自の聖書の「翻訳版」まで持っています。

この運動の世界的影響と、そのコア信念の持続、全てが、公式組織の欠如や、多くの人にその背後にある霊的な原動力を見るように促すことから、時とともにより狡猾になっているように見えます。では、NARの支持者達は正確に何を信じているのでしょうか？

NARの信念とは？

多くの点で、NARは聖書的なキリスト教から拝借し、運動の中のほとんどは、依然として福音の基本的な教義を受け入れています。それは福音派であり、カリスマ派であって、聖書は誤りのない神の御言葉であると信じています。また、通常、道徳的な問題において保守的な立場をとり、預言を重視、社会的活動を促進し、イスラエルの支援を奨励することもあります。しかし、避けることが出来ない非聖書的なNARの重要な側面があります。それは純粋に感じる神への愛を汚染し、逸脱させます。

私たちはNAR運動に巻き込まれた普通の信者の誠実さには異議ありませんが、やはりNARは徹底的かつ一貫して継続的に「異なるイエス、異なる霊、異なる福音」を促進していると信じています。（第二コリント11:4）

「アセンブリー オブ ゴッド」の米国総理事会は、1949年「後の雨運動」の公式非難に、このように書いています。

「その神学は、”キリストにのみ属するものである人間の営みへの特権を主張している”これは、今日のNAR運動の概要にしっかりと残っており、現在これらのルーツを超えて進化はしていますが、同様の特徴を担っています。

要するに、NAR運動は信者達に、私たちの主である神にのみ属し、神がその御心に従って与えられるものを自分達のものであると主張するよう奨励しています。権力、権威、支配、権限、超自然能力、祝福、成功、健康、繁栄など。それは、いつ、どこで止めるかを知らないキリスト教であり、聖書的な抑制と均衡の欠如が特徴の過剰に熱心な神学、霊的動きです。

多くの内部変動を含むNARの緩い動きは、それに対して支持者達は部分的かつ、一貫して同意しないでしょうが、NARの中核的な信念には次の事柄が含まれます。

1. 指導者は、現代の「使徒」と「預言者」
2. ドミノニズム（統治主義）：イエスの再臨に先立って、教会は地球上で全能になり、主のために準備を整えるという教え

3. 信者には、この任務を果たすため、無限の神の力と祝福が与えられるという信念
4. 超自然と超聖書的な啓示を過度に重視
5. 権威と人間の営みを過度に重視

この記事の残りの部分では、これらの5つのNARの信条を取りあげ、それぞれ、なぜ人を惹きつけ、かつ欺瞞的で聖書に反するのか、その理由を簡単に考察します。

1. 現代の「使徒」と「預言者」である指導者達

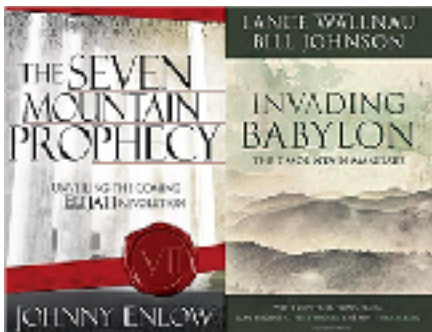
NAR運動は、エペソ人への手紙2:20 を捻じ曲げて、神が終末時代の「超使徒」と「預言者」を起こし、――それらはキリストによって任命された本来の使徒と同等、またはそれ以上である――教会をこの世での勝利に導くと主張します。ますます不確かになる世界、特に若者にとって、強く見えるカリスマ指導者は過小評価されるべきではありません。クリスチャン達は、使徒と預言者の聖書的な役割が、まだ今日も存在するのかかどうかについては意見が異なりますが、確かであることは、自己任命のエリート主義、神から与えられた権威を主張する有名指導者の動きは、完全に危険であり、聖書に完全に反します。カルトのように人格に焦点を置くNARでは、信者が、特定の人々の教えの下に身を置き、個人的な祝福を受け取るために必死になって世界中を旅したり、疑う余地なく彼らの言葉を受け入れるように導きます。この比較的小さな男女の集団に濃厚に集中した権力が、現在、世界的な影響力と毎年数百万ドルを支配しており、誤る事のないスーパースターとして扱われる中で、ポール・カイン (Paul Cain) や、最近ではトッド・ベントレー (Todd Bentley) のような、しっかりと記録された例のように、簡単に悪用される可能性があり、また、これまで悪用されてきました。これらの男性はどちらも恵みから見事に落ちましたが、深い悲しみや真の悔い改めが不在のまま、すぐに「復活」しています。

すべて、これは新約聖書のエクレシヤ、唯一の御名:イエス・キリストの上に建てられた信仰のコミュニティからかけ離れた世界です。元々の使徒たちは、福音の協働使節であり、謙遜と、しもべとしての指導力に高い価値を置き、自己推薦やフォロワーを得ようとすることはありませんでした。(例: 第一コリント3:4; 15:9) 彼らの教えは、すべてのものを計り、調べることの重要性を強調しました。(例: 第一テサロニケ 5:21) そして、イエスが命じた通り、偽の教師や預言者を熱心に見張りました。(マタイ 7:15-20) 指導者の立場にある人たちは、その影響力の高さのため、より高い水準が求められることを知っていました。(ヤコブ 3:1)

「私は、神の力の働きにより、自分に与えられた神の恵みの賜物によって、この福音に仕える者とされました。すべての聖徒たちのうちで一番小さな私に.....」使徒パウロ、エペソ人 3:7-8

「あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。...地から出る者は地に属し、地のことばを話す。天から来る方は、すべてのものの上におられる。」バプテスマのヨハネ、ヨハネの福音書 3:30-31

2. ドミノニズム (統治主義) : イエスの再臨に先立って、教会は地球上で全能になり、主のために準備を整えるという教え



NAR運動の中で人気があるのは、「セブンマウンテン・マンドート/7つの山の権限」(キリスト教徒は世界を変革するために、文化の「七山」を占領しなければならないという考え)や、「地球に天国をもたらす」「御国のために社会と創造を取り戻す」「御国の為の創造」などの教えです。

信者が福音と聖霊の変革力によって、地域社会や国々への光と祝福の担い手になるという聖書の希望、そして当然であるリバイバルへ望みは、物理的な御国を確立する責任と推測され、それがキリストから教会の肩の上に移されました。

キリスト教王国再確立の目標は明らかに、これまで自分たちの国が神をないがしろにし、極限にまでスピンするのを見てきた西洋のクリスチャンを魅了します。しかし、少し深く掘ると、NARのドミニオニズムは、キリストの主権を奪い、贖い、回復させ、裁く主の権限を主から奪います。

実際、「キングダムナウ」の文化は、この人生におけるキリスト再臨の勝利と天の祝福を信者に約束し、「物事はさらに良くなる一方だ。」「次の大リバイバルが近づいている」という誤った期待を生み出します。これによって人々は本当に主を求めることを止め、自分の目的を理解することを止めてしまいます。また、主の再臨に先立って起こる欺瞞と迫害の恐ろしい日々を語る、聖書の膨大な部分に対して、人々を盲目にします。

困難な時が来たとき、または、大規模なリバイバルの予測が実現しない場合、期待は失望となり、信者は否定に追い込まれるか、または信仰から完全に遠ざかることになります。

「不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」

イエス、マタイ 24:12-14

「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」使徒パウロ ペリピ 3:20

3. 信者には、この任務を果たすため、無限の神の力と祝福が与えられるという信念



「Manifest Sons of God/神の御子表明」運動からヒントを得て、NARの教師達は、神の子供たちは世界で素晴らしいことをするよう運命づけられており、信者は信仰によって、豊かな祝福、健康、神から超自然的な力と無限の恵みの人生を主張する事が出来ると強調します。ある人たちは、悪名高く、信者は神性と肉体的な不滅を達成することが出来る”小さな神々”であると主張します。

豊かさの約束といった、そのような肉体的な主張は明らかです。（創世記 3:5）。神の愛、良さ、恵み、祝福についての真理を取り上げ、聖書の境界をはるかに超えて、それらのすべての均整を破壊します。信仰の生活は、成熟と神聖さの成長よりも、この約束された豊かさを追求し、「主張」することを巡って再生されるのです。このように、NARの教えは、規律、判断、罪と人間の弱さのような概念を強調することを除去します。それは神と人類の根本的な違いをばかし、信者達を、与えられた場所をはるかに超えて崇めます。

信者たちは、病気や苦しみは常に信仰の欠如や霊的な攻撃（他のどんな理由よりも）の結果であると教えられます。一方、悔い改めや肉を否定するなど、聖書で禁じられ、訓戒されて、警告されている概念は傍へ追いやられています。

その結果、消費者主義の西洋と全体的に合致した、肩書きばかりの腐敗した教会文化が生み出されました。NARは、「もっと！」という飽くなき叫びで知られています。

「「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」

イエス、マタイ16:24

「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。」使徒パウロ、第二コリント 4:7-10

4. 超自然と超聖書的な啓示を過度に重視



NAR運動は、奇跡的な癒し、靈的な賜物の分け与え、按手によって油を注ぐこと、神の栄光の具体的な経験、知識の言葉、み使いの訪れ、超自然的な現象や、多種にわたる”しるし”や不思議（後者の悪名高い例では、金粉や、金の歯、羽の出現が含まれる）を含む、神との体験的な関係に特別な重点を置きます。

イエスと使徒たちの聖書の記述では、今日の不信、超物質主義の西洋ではめったに見られない奇跡について語っています。一般のキリスト教徒は、神の存在を証明するだけでなく、「イエスが歩いたように歩く」ために、当然のことながら、超自然現象に飢えています。しかし、本物の新約聖書のキリスト教のこの聖書的欲求は、「宗教ではなく関係である」と叫ぶNARによって、あまりにもかけ離され、あっという間に、あらゆる形の聖書の權威、秩序と組織（”油を注がれた”使徒と預言者の權威のために取っておけ！）に敵対して反応するようになりました。そしてそれは、本能的、無謀、さらには制御不能ですらなく、特権となっています。

このようなポストモダンな体験の神学は、ミレニアル世代に見事に適応しますが、しかし聖書と基本的な福音の信条に対して、まるで何かが不足しているような、敬意の低下が伴います。聖書と福音の基本的な教義のための低い点が付属しています。代わりに、靈的及び「新しい」知識のグノーシス（不可知論）主義的な追求によって、信者は、神ではない靈的な影響と、壮大な預言的主張に晒され、信仰の名により、洞察力は放棄され、思考は中断されます。

当然のことながら、NARの動きは、奇妙な現象、神秘的な経験、そして溢れる、おそらく偽の「預言的」な言葉で最初から特徴づけられています。すべては、疑わずに受け入れるよう仕向ける教会文化によって奨励され、批判は「律法主義」としてシャットダウンされています。

「愛する者たち。靈だからといって、みな信じてはいけません。それらの靈が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。」使徒ヨハネ、第一ヨハネ 4:1

「... 神の御言葉の飢饉が生じている... そのため、それが神からのものであるかどうかを聖書によって自分で判断する能力のないキリスト教徒を大量に残した。彼らは教義と実践の両方において無防備だ...」ピーター・フェンウィック

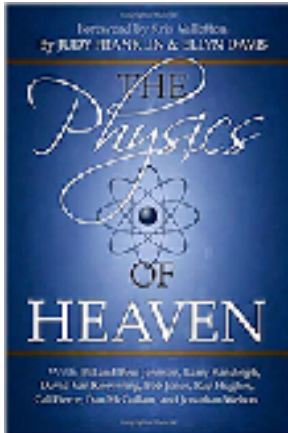
5. したがって、上記を踏まえると、NARは、権力と人間の営みを過度に重視します。

NARの影響を受けた教会文化は、今日、信者の靈的な「權威」を強調し、NARの教えは、度々、人々が祝福、リバイバル、超自然的な体験の「引き金を引き」「始動し」「目覚め」ることを助けると主張します。NARの言語は、「解放」「分け与え」「油注ぎ」「活性化」「破壊」「宣言」「断言」などといった、権限的用語が溢れています。

キリストにおける、私たちの本質と權威の限界を明確にすることは、主の役割を奪い、私たちが自分のものではない権限を、自分のものだとして主張することを避けるために不可欠です。NARでは、靈的な力を振るうことへの欲求は、時に、靈的戦いに過激な重点を置きます。祈りの中でその領域の悪霊と交戦することによって、御国の領土を「取る」という実践においては特に。真実の福音の宣言は、靈的權威と交戦したいという危険な欲望に取って代えられ、罪に対処することへの懸念が、敵の活動に没頭する事に置き換えられています。

洞察力がなければ、この手の行動は、前述の「名指しで主張する」文化を悪化させ、あらゆる自己的で、愚かな行動につながる可能性があります。カリフォルニア州のベテル教会は、このような行動の例をふんだんに提供しています。例えば、神殿の丘の周りを行ったり来たりして、敵に対する「勝利」を宣言したり、崖から落ちた友人のために救急サービスを呼び出す代わりに祈ったり、雨を預言し風に命じてカリフォルニアの火災を止めようとしています。

私たちは、聖霊に触発された宣言や、神から促された信仰の行動、または執り成しの祈りの力を否定しているわけではありません。しかし、NARの教えは、これらのものを神から奪い去り、人間の手の中にそれらを置きます。まるで、聖霊の力を動かし、その意志を曲げることを、人間が習得出来るかのように。この支配に対する不健康な態度は、前述の超自然現象に夢中になることと組み合わせると、ニューエイジへの扉を開きます。



「シフト」「アライメント」「運命」などのニューエイジ用語は、催眠音楽やオカルトから借りた神秘的な慣習と同様に、NAR内では一般的です。よく知られている例の一つは、「天国の物理学」で、カンザスシティの預言者ボブ・ジョーンズとラリー・ランドルフを含む著者と、広く知られるよるNARの名士ビル・ジョンソンとクリス・ヴァロットンからの貢献による2012の本です。

この本は、「個人的な超越性」を達成する方法についての秘密を明らかにするために、「振動」「癒しのエネルギー」「イルカセラピー」「飛躍神秘主義」のような、ニューエイジからの実践を「再生」することを目的としています。

「そして、信仰にはいった人たちの中から多くの者がやって来て、自分たちのしていることをさらけ出して告白した。また魔術を行っていた多くの者が、その書物をかかえて来て、みなの前で焼き捨てた。」使徒の働き19:18-19

「わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」 イエス、マタイ7:21-23

結論

上記の概要は包括的ではありません。これらの事項を調べた人なら誰でも分かるでしょう。しかしこれは、この動きに対する、プロファシー トゥデーの立場を明確にすることを意図しています。私たちの評価は、これは聖書のキリスト教を通じて、かわし、すり抜け、真理に混ざった、危険で湾曲された完全なる背信です。

したがって、これは「混ぜ物」の動きの典型的な例です。NARの教師達が、真実または価値のあることを決して言わないと言っているわけではありません。それがまさにポイントです。彼らは時々それをします。その中に含まれる真実に対して無慈悲に見えることなく、その材料を批判することは非常に困難です。したがって、より目の肥えたキリスト教徒達は、NARの影響によって分割される傾向があります。ある人たちはそれを良しとし、無駄なものと一緒に大事なものを捨てることを望みません。他方は完全な欺瞞として、それを完全に拒否します。(第2コリント 11:4)。多くの人々は、誤って聖霊を冒瀆しないため、「神の」ものを含んでいるかもしれない運動に対して話すことを単に恐れています。

この記事の冒頭で述べたように、私たちはNAR運動に巻き込まれた、誠実な信者に異議を唱えているものではありません。しかし、広く言えば、NARの教育と文化を聖書の観点で見れば、それは事実上すべての点で不合格となるでしょう。問題は、それが今、イギリスの主要カリスマ派キリスト教に混ざり、覆っている点です。それが、非常に多くの忠実なカリスマ派信者が、健全な教会のフェローシップを見つけることができない理由の一つです。

NARの増え広がり、主の前で重く見られるべきです。終わりの時の欺瞞を予告した聖書に照らし合わせれば、なおさらです。しかし、忠実な信者のために残された唯一の選択肢は、「撤退」だとは私は信じません。組織的な批判は絶対に必要であり、私たちは聖書を慎重に調べて真理を見つけ、それを防衛する準備をし、信仰のために熱心に戦う必要があります。

ます。(ユダの手紙3節) もしNARが、見かけ通り本当に欺瞞的であれば、西洋教会とその証人の未来は、まさに危機に瀕しているのかもしれませんが。

パウロのテモテへの指示は、今日私たちにとって特に重要です。

「神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現われとその御国を思って、私はおごそかに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うてもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。しかし、あなたは、どのようなばあいにも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。」(2 ティモテ 4:1-5)

私たちと一緒に、この問題を提起して下さった多くの読者に感謝します。

参考文献

- 1 [Click here](#) to read our serialised version, which provides a useful history of the whole movement.
- 2 Wagner, CP, 1998. *The New Apostolic Churches*. Regal, CA, p18.
- 3 See Christerson, B and Flory, R, 2017. *The Rise of Network Christianity: How Independent Leaders Are Changing the Religious Landscape*. OUP USA.
- 4 E.g. Destiny Image, Charisma Media, God TV and TBN.
- 5 The 'Passion Translation', though it is really a paraphrase. Read critiques [here](#) and [here](#) and note its NAR connections [here](#).
- 6 See [chapter by David Forbes](#) in *Blessing the Church?*
- 7 There are other streams of Dominionist theology that transcend charismatic circles. Not all have the same perspective on the end times.
- 8 Some, like Bill Johnson, do not claim these things overtly. But neither does he stop people from claiming them for him.
- 9 This end goal of subduing the whole earth can precipitate some strange alliances, at great doctrinal cost.
- 10 This overlaps considerably with the 'Word of Faith' movement/the idea of 'positive confession' and has synergy with the prosperity gospel, also secular psychology.
- 11 This is a misappropriation of [Psalm 82:6/John 10:34](#) and stems especially from Manifest Sons of God teaching. It can shade into New Age assertions about 'the divine within' and be coupled with a down-playing of Christ as the first of many sons, or as a human endowed with divine power, rather than THE only begotten Son of God, fully human but also fully divine.
- 12 [Blessing the Church?](#) p50.
- 13 We are not saying that prayer is not important or spiritually significant, nor that believers cannot be led by God to pray strategically – but this must be led by God and not assumed.
- 14 Bethel Church in California recently hit the news for supporting the use of Christianised tarot cards as a form of outreach, and are known for the practice of 'grave-soaking': visiting the graves of Christian heroes and physically trying to 'soak up' some of the 'anointing'.